

## 中学校（進路検討期）における「個別の教育支援計画」作成・活用のポイント

### <個別の教育支援計画を作成・活用するメリット>

- 学校種や学級担任が変わっても、生徒の状態や必要な支援を確実に引き継ぐことができます。
- 個に応じた目標や支援の手立てを具体的に示すことにより、家庭、医療、福祉などの関係機関と連携しながら、中・長期的な視点に立った支援を行うことができます。
- 子どもの育ちを記録することにより、保護者が支援者と共に子どもの成長を確かめることができます。
- 高等学校との引継において、子どもの実態や取り組んできた支援内容等を提示することにより、子どもに適した継続した支援を行うことができます。

### ■養護学校への進学を控え、家庭や関係機関と連携して支援を行った事例

#### <子どもの実態と抱えている課題>

- ・いつも笑顔で過ごしており、誰とでも仲よくできる。
- ・他者との距離感がつかめず、トラブルになってしまうが、本人はどうしてなのか理解ができない。
- ・感情のコントロールをうまくできず、それを担任以外に相談ができない。
- ・卒業後は高等養護学校に進学、その後は就職して自立した生活を送りたいと考えている。

#### 実態の把握

関係担当者名： ○○中学校 担任：

項目	できること・得意なこと			
	お子さんの様子	場面・状況	お子さんの様子	場面・状況
生活	本人の力でできたこと、できること。よい変化など。	本人がうまくできるための助けになる状況、物や人など。	本人の力でできづらいこと、苦手なこと。気になる変化など。	本人が力をうまく出せないことに関わる状況、物や人など。
学習	ここに記入することは、教科学習の状況、家庭学習の様子、学習意欲など、学習全般についてです。	ここに記入することは、教科学習の状況、家庭学習の様子、学習意欲など、学習全般についてです。	ここに記入することは、教科学習の状況、家庭学習の様子、学習意欲など、学習全般についてです。	ここに記入することは、教科学習の状況、家庭学習の様子、学習意欲など、学習全般についてです。
人との関わり等	ここに記入することは、大人との関係や友達関係、「ことば」などのコミュニケーションの様子、状況やルールの理解などです。	ここに記入することは、大人との関係や友達関係、「ことば」などのコミュニケーションの様子、状況やルールの理解などです。	ここに記入することは、大人との関係や友達関係、「ことば」などのコミュニケーションの様子、状況やルールの理解などです。	ここに記入することは、大人との関係や友達関係、「ことば」などのコミュニケーションの様子、状況やルールの理解などです。
進路実現のために	ここに記入することは、将来の自立に向けて、今できることなど、進路全般についてです。	ここに記入することは、将来の自立に向けて、今できることなど、進路全般についてです。	ここに記入することは、将来の自立に向けて、今できることなど、進路全般についてです。	ここに記入することは、将来の自立に向けて、今できることなど、進路全般についてです。

#### 【作成する際のポイント】

- ・遊びやゲームなどのルールや、学校生活や社会生活上でのルールを理解できるか、相手の立場に立った思考や判断ができるかなどについて記入します。
- ・学習したことをどの程度生活の中で生かせるのか（日常生活に活用できるか）も記入します。

#### 【作成する際のポイント】

- ・あいさつや言葉遣い、日常会話の内容や様子、場面や状況の説明の可否、想定外の事態に遭遇した時にどのような対応をするか、吃音や発音の誤りなどの情報を記入します。

#### 【活用する際のポイント】

- ・将来的な「就労」を視野に入れて、その子の生活能力、コミュニケーション能力、作業能力などを総合的に把握します。その上で、このシートを基に、どのような指導や支援ができるかを関係機関と検討していくことが大切です。

## 関係機関との連携

### 子ども支援センターやことばの教室、相談・支援のこと（No. ）

番号	保護者もしくは担当者が記入		保護者が記入
	日付 機関・担当者名	内容や結果等	子どもの様子 (経過や家庭でやってみたこと、変化があったこと やエピソード等)
1			<b>【作成する際のポイント】</b> ・中学校段階では、子ども支援センターやことばの教室の利 用はなくなります。
2			

### 医療・療育機関・相談・支援のこと（No. ）

番号	保護者もしくは担当者が記入		保護者が記入
	日付 機関・担当者名	内容や結果等	子どもの様子 (経過や家庭でやってみたこと、変化があったこと やエピソード等)
1	平成〇年〇月〇日 〇〇特別支援センター 担当 △△	特性を活かした関わり について	・聴覚優位の傾向があるため、音で理解させるなど の配慮をする。
2	平成〇年〇月〇日 〇〇特別支援センター 担当 △△	特性を活かした関わり について	・音により理解させる配慮が、子どものプラスになっ ている様子がみられるため、今後も継続していく。 <b>【活用する際のポイント】</b> ・各関係機関と情報交換をする際に、必要に応じてこ れまでの相談内容や支援状況を示し、共通理解を図 ることができます。

### 医療・療育機関・相談・支援のこと（No. ）

番号	保護者もしくは担当者が記入		保護者が記入
	日付 機関・担当者名	内容や結果等	子どもの様子 (経過や家庭でやってみたこと、変化があったこと やエピソード等) <b>【活用する際のポイント】</b> ・医療的ケアが必要なものについては、最重要事項 として把握します。
1	平成〇年〇月〇日 〇〇病院 担当 △△	てんかんについて 処方薬：〇〇	・聴覚優位の傾向があるため、音で理解させるなど の配慮をする。
2 3	平成〇年〇月〇日 〇〇病院 担当 △△	てんかんについて 処方薬：△△に変更	・精神的な緊張や睡眠不足、発熱などの原因により起 こることが多いため、生活を改善し、誘発要因を少 なくするよう生活環境を整える。

**【作成する際のポイント】**  
・過去に利用した医療機関や療育機関、現在も定期的なつ  
ながりのある機関があれば記載します。その際は、内容  
や検査結果等についても記入します。

## 「個別の教育支援計画」

年 組 ( 歳 か月) 氏名  
作成年月日 年 月 日 記入機関・記入者

### メイン支援機関の希望・願い

- ・就職して自立した生活を送りたい。(本人)
- ・対人関係のトラブルが少なくなしてほしい。(保護者)

#### 【作成する際のポイント】

- ・「実態把握シート」に記入した内容について、特に気になる部分等をピックアップします。

### いまの様子（現状把握）

#### 今後の手がかり

- ・将来に向けて、就職して自立した生活を送りたいという気持ちが芽生えた。
- ・計算など、生活に関連した学習への意欲が高い。
- ・聴覚優位の傾向にあり、耳から入った情報を記憶する能力が高い。
- ・人懐っこい性格であり、誰にでもあいさつができ、笑顔で接することができる。

#### 気になること

- ・聞き間違い、聞き漏らしが多く、指示の理解が難しい。
- ・こづかいをもらうとすぐに使い切ってしまう。
- ・自信がないことには取り組もうとしないことが多い。
- ・他者との距離感を考えるのが難しく、あまり接したことのない相手にも親しげに接してしまいトラブルになることがある。

#### 【作成する際のポイント】

- ・卒業時期を見通して記載します。また「就労」を視野に入れながら、子どもの学習、日常生活能力、コミュニケーション能力、作業能力面などの目標を設定します。

### 長期目標：( 1 ) 年後を見通した目標

- ・相手の気持ちを考えて行動することができる。
- ・自信がないことや苦手なことにも挑戦することができる。

### 短期目標：( 6 ) か月内の達成目標

- ・誰にでも相談できるようにする。
- ・指示内容を教師と一緒に確認することができる。

#### 【作成する際のポイント】

- ・3～6か月程度を見通して記載します。長期目標の内容をさらに具体化させます。支援の場面や数値目標などが明記されると更に具体的になります。

### 支援の手立て

#### 本人への働きかけ

- ・担任以外に相談できるように促す。
- ・SSTを実施し、場面ごとにロールプレイをすることで、他者の気持ちが理解できるようにする。
- ・事前学習を充実させ、不安を取り除く。
- ・指示内容の確認をする。

#### 【活用する際のポイント】

- ・就労やその後の生活支援につながるよう、お互いに各支援機関の希望や願いを十分に把握し、指導援助につなげていくことが大切です。

#### 環境調整の工夫

- ・指示を出す際には、なるべく平易な言葉を使う。
- ・メモや小さいホワイトボードなど視覚情報も充実させる。

#### 【活用する際のポイント】

- ・高等学校と引継を行う際に、これまでの取り組んできた具体的な支援内容を示すことにより、本人に適した支援を継続的に行うことができます。

- 平成27年〇月〇日：メモやホワイトボードでは指示内容を確認ができなかったため、別の手だてを考える必要がある。
- 平成27年〇月〇日：指示内容の確認については、個別に時間をとって平易な言葉で説明することで理解することができたため、今後も継続して対応していく。